

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# ソフトボール

2026年／令和8年

第498号

9月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



インターハイ男子で念願の「単独優勝」を飾った広島県立御調高等学校

## C o n t e n t s

|                           |    |                        |    |
|---------------------------|----|------------------------|----|
| ・女子TOP日本代表レポート .....      | 2  | ・第40回全日本小学生女子大会 .....  | 18 |
| ・第66回全日本実業団女子選手権大会 .....  | 4  | ・第40回全日本小学生男子大会 .....  | 20 |
| ・第66回全日本実業団男子選手権大会 .....  | 6  | ・第72回全日本教員大会（中止） ..... | 22 |
| ・第47回全日本クラブ女子選手権大会 .....  | 8  | ・夏の全日本大会、開催真っ盛り！ ..... | 23 |
| ・第78回全日本高等学校女子選手権大会 ..... | 10 | ・日韓交流事業（チーム招待） .....   | 25 |
| ・第61回全日本高等学校男子選手権大会 ..... | 12 |                        |    |
| ・第26回全日本中学生男子大会 .....     | 14 | ・事務局だより .....          | 27 |
| ・第26回全日本中学生女子大会 .....     | 16 |                        |    |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

[www.softball.or.jp](http://www.softball.or.jp)

# 女子 TOP 日本代表レポート 第1次海外強化合宿を実施

2026年7月20日（月・祝）～8月8日（土） アメリカ・オクラホマシティ



## USA インターナショナルカップ出場



去る7月14日（火）～18日（土）、ペルー・リマで開催された「第18回女子ワールドカップグループステージ」グループBを「全勝」で1位通過。「第1代表」として「第18回女子ワールドカップファイナル」進出を決めた女子TOP日本代表は、そのままアメリカ・オクラホマシティへと移動し、「第1次海外強化合宿」を実施。「LA28」（2028年ロサンゼルスオリンピック）の試合会場ともなる地で強化合宿に励んだ。

合宿中に、アメリカ、カナダ、チャイニーズ・タイペイ、中国、オーストラリアの代表チームも出場した「USAインターナショナルカップ」に参加。オープンングラウンド・グループAに振り分けられた女子TOP日本代表は、アメリカ領サモアに5-0、チャイニーズ・タイペイに5-3、U.S. Eliteに9-2と3戦全勝。グループA1位で最終順位決定戦に進み、セミファイナルでグループB2位のカナダと対戦。最終回2点のビハインドをひっくり返し、6-15のサヨナラ勝ちでファイナルに進出。アメリカとの「全勝対決」に臨んだが、0-2の完封負け。準優勝に終わった。当初の目標であった「第18回女子ワールドカップファイナル」進出は決めたものの、「LA28」で金メダルを争うと予想される「宿敵」アメリカに敗れる等、今後へ「課題」も残る内容・結果となった。

# USA インターナショナルカップ オープニングラウンド（予選リーグ）グループA 試合結果



第2戦 JAPAN 5 - 3 CHINESE TAIPEI



第1戦 JAPAN 5 - 0 AMERICAN SAMOA

OPENING ROUND（予選リーグ）  
GROUP A

## 3戦全勝 1位通過



第3戦 JAPAN 9 - 2 U.S. Elite



SEMI FINAL JAPAN 6 - 5 CANADA



FINAL JAPAN 0 - 2 U.S.A.

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になります



大会出場メンバー、試合スケジュール等、詳細情報はこちら

# 第66回全日本実業団女子選手権大会

令和8年7月18日（土）・19日（日）徳島県徳島市／徳島市民吉野川北岸運動広場

記録提供：徳島県協会記録委員会

## 大和電機 Blue Lakers（長野）



# 3年ぶり3回目の優勝

大会初日（18日／土）に1回戦・2回戦の5試合、最終日の2日目（19日／日）に準決勝・決勝の3試合を行い、無事に全日程を終了することができた。ベスト4には、平林金属 Peach blossoms（岡山）、大和電機 Blue Lakers（長野）、静岡ソルフェジオ（静岡）、花王コスメ小田原フエニックス（神奈川）が勝ち上がり、実業団女子の「頂点」の座をかけ、激突した。



66回の歴史を刻む本大会、今年は徳島県を舞台に開催

今大会は7月18日（土）・19日（日）の両日、徳島県徳島市／徳島市民吉野川北岸運動広場を舞台に開催された。

### 〈準決勝〉大和電機 Blue Lakers 4－1 平林金属 Peachblossoms

先攻の大和電機は初回、1番・長尾明奈のショート内野安打と盗塁で無死二塁の先制機をつかみ、一死後、犠牲バントで三塁へ進塁。二死三塁とし、4番・新海雪奈がセンター前タイムリーを放ち、先制点を挙げた。

大和電機は1点を返され、迎えた3回表にも、二死から敵失と3番・矢崎月菜の二遊間を抜くタイムリーで勝ち越し。2－1と1点をリードしたまま、迎えた最終回には、一死から9番・上原彩瑛がレフトへのツーベースで出塁。犠打で二死三塁とし、2番・三堀茉莉愛の二遊間を破るタイムリーで1点を追加。さらに3番・矢崎月菜のライト前ヒット、4番・新海雪奈の故意四球で満塁と攻め立て、途中出場の5番・村井聖那のショートゴロがエラーを誘い、ダメ押しの4点目を奪い、4－1で勝利を収め、決勝へ駒を進めた。



大和電機が初回から着々と加点し、4－1で快勝

### 〈準決勝〉花王コスメ小田原 フェニックス 0－1 静甲 ソルフエジオ

静甲は2回裏、この回先頭の5番・土屋亜友未がセンター前ヒットで出塁。犠打で二塁へ進塁し、7番・西村雛がレフト前ヒット。本塁へ送球されるのを見て、打者走者が二塁を狙い、二塁タッチアウトとなる間に二塁から三塁に進塁していた走者が本塁を陥れ、1点を先制。

この1点をエース・小井沼美月が被安打1・奪三振14の好投で守り抜き、4年ぶりの決勝進出を決めた。



エースが熟投！ 静甲が決勝へ

### 《決勝》静甲 ソルフエジオ 1－2 大和電機 Blue Lakers



大和電機が死闘を制し、栄冠つかむ

決勝は、両チームともに一步も譲らず、0－0のまま、延長タイスレークに突入。

8回に両チーム1点ずつを取り合い、迎えた延長9回表、静甲は三塁まで走者を進めながら無得点。

大和電機はその裏、タイスレークの走者を二塁に置き、4番・新海雪奈が故意四球で歩かされ、無死一・二塁となった後、次打者の犠打で一死二・三塁に。6番・堀川美瑠瑠がワンボールからの2球目にヒットエンドランを決め、三塁走者がサヨナラのホームイン！ 2－1で死闘を制し、3年ぶり3回目の栄冠をつかんだ。



優秀選手賞  
小井沼 美月  
(静甲 ソルフエジオ)



大会 MVP  
斉藤 未来  
(大和電機 Blue Lakers)

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

# 第66回全日本実業団男子選手権大会

令和8年7月25日（土）～27日（月） 愛知県刈谷市／刈谷球場 他

記録提供：愛知県協会記録委員会

## 平林金属 RINO BLAZE（岡山）



# 念願の初優勝

「第66回全日本実業団男子選手権大会」は、愛知県刈谷市・刈谷球場を主会場として、7月25日（土）～27日（月）の3日間にわたり開催された。

大会期間中は、連日35度を超える酷暑が続き、熱中症対策として、3インングごとに5分間の給水タイムを設け、決勝戦を除くすべての試合で5回表から4名の審判員を総入れ替えする等、新たな取り組みも実施された。



熱中症対策として新たな取り組みも実施された

大会最終日の準決勝に駒を進めたのは、2023年にクラブ登録から実業団登録に変更し、「本大会初優勝」をめざす平林金属 RINO BLAZE（岡山）。「地元開催」で4年ぶりの頂点を狙う豊田自動織機（愛知）。日本リーグ所属のデンソー（愛知）にコールド勝ちを収め、ベスト4入りを果たしたコマニー株式会社（石川）。3年連続のベスト4進出で「今年こそ！」と意気込む安川電機（福岡）の4チーム。

栄冠を手にするのはどのチームか。「実業団男子」の頂点をかけた最後の戦いが繰り広げられた。

### 〈準決勝〉豊田自動織機 9 - 10 平林金属 RINO BLAZE

試合は壮絶な打ち合いとなり、先攻の豊田自動織機は初回、安打、四球、安打で無死満塁のチャンスをつかむと、4番・宮本海斗のタイムリー、5番・菊川智己の塁上の走者を一掃する三塁打で4点を先制。

4点を追う平林金属は2回裏、5番・和田彩斗、6番・小島聖矢の連打、犠打、四球で一死満塁と攻め立て、9番・黒岩陽斗の「グランドスラム」（満塁ホームラン）で一気に同点。二死後、2番・井上裕太郎にもソロホームランが飛び出し、この一回一挙5点を奪い、5-4と試合をひっくり返した。

しかし、豊田自動織機もすぐに反撃。4回表、安打、四球等で一死一・二塁の好機を得て、3番・山本陸人、4番・宮本海斗の連続タイムリーツーベースで3点を奪い、7-5と再び2点をリード。



23安打が飛び交う大接戦に勝利した平林金属

2点のビハインドを追う平林金属は5回裏、2番・井上裕太郎のツーベースヒット、四球、6番・小島聖矢のショート内野安打等で二死ながら満塁とすると、この試合途中出場の7番・藤井雅広が右中間を破る走者一掃のタイムリーツーベースを放ち、再び勝ち越し。さらに相手守備の乱れもあって、この回4点を奪い、9-7と2点をリードした。

2点をリードされた豊田自動織機は迎えた最終回、一死から代打・森田裕介が二遊間を抜く安打で出塁すると、続く代打・高野秀矩もツーボールからの3球目をとらえ、左中間スタンドに運ぶ「起死回生」の同点ホームラン！試合は9-9で延長タイブレークへとつれ込んだ。

延長8回表の豊田自動織機の攻撃を無得点に抑えた平林金属はその裏、タイブレークの走者を二塁に置き、3番・八角光太郎の一・二塁間を抜くサヨナラタイムリーで激闘に終止符。10-9で平林金属が決勝への切符を手にした。

### 〈準決勝〉コマニー株式会社 1 - 0 安川電機



「エース」藤原が完封。コマニー、初の決勝へ！

もう一方の準決勝は対照的に、両チームわずか2安打ずつの緊迫した投手戦となった。

コマニーは3回表、この回先頭の8番・山下耕流がセカンド内野安打で出塁。二死後、2番・百貫友基のショートゴロが敵失を誘い、一塁走者が一気にホームイン。貴重な先取点を挙げた。

この1点をコマニーのエース・藤原智徳が被安打2・奪三振10の好投で守り抜き、初の決勝進出を決めた。

### 《決勝》コマニー株式会社 4 - 5 平林金属 RINO BLAZE

後攻の平林金属は初回、1番・浜本梯がワンボールからの2球目をバックスクリーンに運ぶ「先頭打者ホームラン」。1点を先制した。

1点を追うコマニーは3回表、四球、犠打で一死二塁のチャンスをつかみ、9番・百貫友基のバント安打で一死一・三塁と攻め立てると、1番・出嶋聖治、2番・小山竜加の連続タイムリーで逆転。なお一死一・三塁の好機が続き、3番・小滝海斗のレフトへの犠牲フライでもう1点追加。この回3点を挙げ、2点のリードを奪った。

逆転を許した平林金属は4回裏、二死から6番・小島聖矢が四球を選び、出塁。続く7番・藤井雅広がレフトスタンドへ豪快な一発！「同点ホームラン」を放ち、試合を振り出しに戻した。平林金属は5回裏にも、2番・井上裕太郎がソロホームランを放ち、4-3と勝ち越しに成功。

しかし、直後の6回表、今度はコマニーの3番・小滝海斗がレフトスタンドに突き刺すソロホームランを放ち、再び4-4の同点に……。

同点とされた平林金属はその裏、一死から5番・和田彩斗がツーボール・ツーストライクからの6球目を強振！ライトスタンドへ「値千金」の一発を放ち、再び勝ち越しに成功。最終回、コマニー必死の反撃を無得点に抑え、5-4で勝利！念願の「実業団選手権初優勝」をつかんだ。



死闘を制し、初優勝をつかんだ平林金属

**大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！**

# 第47回全日本クラブ女子選手権大会

令和8年7月25日（土）～27日（月） 山梨県北杜市／高根総合グラウンド・武川運動公園  
記録提供：山梨県協会記録委員会



MORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）

## 5連覇の偉業達成！



優秀選手・坂井寛子  
（クラブ金沢）



大会 MVP・宮原まりん  
（MORI ALL WAVE KANOYA）

### 【大会概要】

標記大会が、7月25日（土）～27日（月）の3日間、山梨県北杜市・高根総合グラウンド・武川運動公園を会場に開催された。

大会には、前年度優勝・準優勝チーム、各地区・各都府県の予選を勝ち抜いた代表32チームが集結。大会初日、4球場を使用し、1回戦16試合を行い、2日目も4球場で2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は高根総合グラウンドの2球場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、全日程を終了した。

大会初日は厳しい暑さの中での試合となったが、2日目以降は高原特有の爽やかな風が吹き、日陰に入れば涼やかさを感じる気候の中、予定通り全日程を終了することができた。

準決勝には、大会「5連覇」の偉業達成がかかるMORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）、JSL所属のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校（滋賀）、2031年「奈良国スポ」へ向け、立ち上げられた奈良クラブ（奈良）、2004年アテネオリンピック銅メダル、2008年の北京オリンピックでは金メダルに輝いた坂井寛子擁するクラブ金沢（石川）、以上の4チームが「クラブ女子日本二」の座をかけ、最後の決戦に挑んだ。

## 〈準決勝〉 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 0-10 MORI ALL WAVE KANOYA

後攻のMORI ALL WAVE KANOYAは初回、相手守備の乱れと5番・竹原由菜の適時内野安打、6番・佐々木桃花のセンターへの安打に相手守備の乱れが絡み、3点を先制し、試合の主導権を握ると、続く2回裏には3番・山根楓加のスリーランホームランを含む4本の長短打を集中し、4点を追加。3回裏には相手守備の乱れに乗じて2点を加え、4回裏、二死走者なしから5番・竹原由菜、途中出場の6番・森舞華、7番・新谷静の3連続長短打で1点を追加。この得点が10点目となり、10-0で4回得点差コールドゲームが成立。決勝進出を決め、大会「5連覇」の偉業達成に王手をかけた。



MORI ALL WAVE KANOYAが猛打で  
4回コールド勝ち！「5連覇」に王手!!

## 〈準決勝〉 奈良クラブ 0-5 クラブ金沢

クラブ金沢は3回裏、1番・南口結が内野安打で出塁し、犠打で走者を二塁へ進めると、3番・川岸奈央、4番・中島雅、5番・大野まひる、6番・大谷祐紀が怒涛の4連打。この回3点を挙げ、有利に試合を進め、5回裏には二死走者なしから5番・大野まひる、6番・大谷祐紀、7番・砂畑恵理の3連続長短打で1点を追加。6回裏にも2番・五十嵐安奈、3番・川岸奈央の長短打でダメ押しの1点を加え、5-0とリードを広げた。

守っては、「金メダリスト」坂井寛子が6回までわずか2安打に抑える力投。最後は左腕・東小有希が1イニングを締め、5-0の完封勝ち。初の決勝へ駒を進めた。



終始、笑顔の絶えないクラブ金沢。  
笑顔のままで勝ち進み、決勝進出

## 〈決勝〉 MORI ALL WAVE KANOYA 7-0 クラブ金沢

クラブ金沢は初回、「金メダリスト」坂井寛子が二死満塁のピンチを無失点でしのぎ、その裏、1番・南口結がMORI ALL WAVE KANOYAの先発・狸々紫月からいきなりの右越三塁打。無死三塁の絶好の先制機を作った。一死後、3番・川岸奈央のレフトへのファウルフライで三塁走者がタッチアップから果敢に本塁突入を試みたが、……本塁寸前タッチアウト。先制のチャンスを逃がしてしまった。

MORI ALL WAVE KANOYAはその直後の2回表、「金メダリスト」坂井寛子を攻め、2本の安打と犠打野選で一死満塁の先制機をつかむと、2番・鈴木真由子がキッチリとセンターへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が還り、先取点。続く3番・山根楓加にもタイムリーが飛び出し、この回2点を先制。続く3回表にも7番・新谷静の三塁打、相手守備の乱れで2点を追加。5回表には5番・竹原由菜、6番・佐々木桃花、7番・新谷静の3連続長短打と8番・宮原まりんの犠牲フライで3点を追加。5回コールドに必要な7点差をつけた。

クラブ金沢もその裏、必死の反撃を試みたが、二者連続三振の後、「最後の打者」がショートフライに倒れ、5回得点差コールドゲームが成立。MORI ALL WAVE KANOYAが「王者」の強さを見せつけ、大会「5連覇」の偉業を達成した。



MORI ALL WAVE KANOYAが金メダリスト攻略



2026.7.25-27 山梨県北杜市  
第47回全日本クラブ女子ソフトボール選手権大会

決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のイニングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# 第78回全日本高等学校女子選手権大会

令和8年7月27日（月）～30日（木）大阪府大阪市／セレッソスポーツパーク舞洲

記録提供：大阪府協会記録委員会



本大会は、7月27日（月）～30日（木）の4日間にわたり、大阪府大阪市・セレッソスポーツパーク舞洲を会場に開催され、全国の厳しい予選を勝ち抜いた精鋭48チーム（※開催地・大阪府から2チーム出場）が集結。「インターハイ制覇」「夏の高校日本一」をかけて、熱戦を繰り広げた。

特筆すべき事項として、大会2日目（2回戦）の高川学園高等学校（山口）vs飛龍高等学校（静岡）戦で飛龍高・山勢心愛選手が満塁本塁打を記録。大会3日目（準々決勝）の兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校（兵庫）vs星城高等学校（愛知）では須磨ノ浦高・山本心音投手が「ノーヒット・ノーラン」を達成する快挙もあった。

大会最終日には、千葉経済大学附属高等学校、兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校、岩手県立花巻南高等学校、佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校の4チームがそれぞれ勝ち上がり、夏の頂点をめざす最後の戦いに挑んだ。

## 〈準決勝〉

千葉経済大附属高 1－0 須磨ノ浦高

「大会屈指の好投手」として注目される千葉経済・太田真緒、須磨ノ浦・山本心音、両エースが一步も譲らぬ投手戦を展開。



好投手同士の投げ合いで緊迫した展開に

試合が動いたのは終盤6回表、千葉経済は一死から2番・岩永恋絢がピッチャー前にセーフティーバント。これが相手守備の乱れを誘い、出塁すると、続く3番・今立梨子が右中間を破るタイムリツーベース！一塁走者・岩永恋絢が一気に還り、待望の先制点を挙げた。

守っては、エース・太田真緒が走者を背負いながらも、決定打を許さぬ粘りのピッチング。味方の好守備にも助けられ、そのまま完封勝利を飾り、5年ぶりの優勝へ王手をかけた。

### 《準決勝》

花巻南高 4ー1 佐賀女子高

花巻南は2回表、死球、盗塁、セカンドゴロで一死三星の好機を作ると、

6番・千葉愛実の3球目にスクイズ。これを確実に成功させ、1点を先取した。

花巻南は1点をリードしたまま迎えた5回表にも、2番・冨手心陽、3番・佐藤絵鈴の連打、犠打で一死二・三星とし、5番・中条ひよながスクイズを決め、1点を追加。なお二死三星のチャンスが続き、6番・千葉愛実の二遊間を抜くタイムリーでもう1点を加え、3ー0とリード。6回表にも、安打、犠打、盗塁で三星まで進めた走者を、1番・佐藤桜衣のスクイズで生還させ、決定的な4点目を奪った。



スクイズを効果的に決め、4点を奪った花巻南

一方、佐賀女子も、6回裏に1番・伊藤百星の二塁打と敵失で1点を返したが、反撃及ばず。花巻南のエース・

佐藤絵鈴の前に打線が3安打と抑えられ、準決勝敗退となった。

### 《決勝》

花巻南高 0ー2 千葉経済大附属高

花巻南・佐藤洋介監督、千葉経済・白井桃佳監督による「師弟対決」にも注目が集まった決勝戦。



両監督の「師弟対決」が実現し、注目の一戦となった

序盤3回は両チーム無得点。4回裏、千葉経済は2番・岩永恋絢の左中間を破る二塁打、犠打で一死三星の好機を作り、4番・岡田来羽が二遊間を抜く先制タイムリー！なお一死一塁の状況で二盗を仕掛けると、捕手の二塁送球が悪送球となり、一塁走者が一気にホームイン!! 貴重な2点目を追加。



千葉経済が4回裏、2点を先制

投げては、エース・太田真緒が準決勝に続き熱投。2回表の一死三星、4回表の一死二塁、最終回の無死二塁と再三ピンチを招きながらも、無失点に抑える圧巻のピッチング。2ー0で完封勝利を収め、チームを5年ぶり3回目の「インターハイ制覇」へ導き、大会MVPにも選出された。



エース・太田真緒が千葉経済を優勝へ導いた

# 第61回全日本高等学校男子選手権大会

令和8年8月2日（日）～5日（水）大阪府大阪市／セレッソスポーツパーク舞洲



記録提供：大阪府協会記録委員会

大会は、今春の選抜大会を制した豊川高等学校（愛知）と前年王者・長崎県立大村工業高等学校が3回戦で激突（※大村工業が延長8回タイブレークに及ぶ熱戦の末、2-1でサヨナラ勝ち！）する等、随所に「好ゲーム」を展開！

2回戦・熊本県立熊本工業高等学校 vs 飛龍高等学校（静岡）では、飛龍・大野楓芽投手が「大会史上三人目」と



「夏の日本一」をかけ、熱戦展開！

高校生にとって、最高峰の舞台となる「インターハイ」。灼熱の太陽のもと、全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた41チーム（※開催地・大阪から2チーム出場）が大阪府大阪市に集結。高校男子ソフトボール「夏の日本一」を競う「第61回全日本高等学校男子選手権大会」が、8月2日（日）～5日（水）の4日間にわたり開催された。

なる「完全試合」を達成する一幕もあった。

ベスト4には、連覇・大会最多タイ7度目の優勝を狙う長崎県立大村工業高等学校をはじめ、九州産業大学付属九州高等学校（福岡）、岡山県立新見高等学校・高梁高等学校、広島県立御調高等学校がそれぞれ進出。最終日「最後の決戦」に挑んだ。

### 〈準決勝〉

大村工業高 9-0

九州産業大付属九州高



大村が連覇に王手

先攻の大村は初回、相手投手の制球の乱れに乗じて一死二・三塁とすると、4番・濱野恵成が右中間を破る2点タイムリリーツで追加点を挙げ、いきなり3点を先制した。先手を取った大村は続く2回表にも、二死三塁から2番・持原力のバント安打、3番・加勢田莉空のツーランホームランで3点を追加。

4回表にも一死二・三塁から途中出場

の4番・浜田竜成の2点タイムリースリーベース、犠牲フライで3点を加え、大量9点をリードした。

守っては、2回終了6点のリードを得たところでエース・濱野恵成を下げ、浜田竜成へ投手リレー。九産大九州打線をわずかに1安打に抑え込み、完封。9-0（5回コールド）の圧勝で連覇に「王手」をかけた。

### 〈準決勝〉

御調高 11-0 新見高・高梁高

啓新（福井）、東温（愛媛）と優勝候補に挙げられる強豪校を連破。「勢い」に乗る御調がいきなり猛攻！

初回、先頭打者からの3連打、3つの押し出し四球、犠牲フライ、ワイルドピッチ、タイムリー内野安打で大量7点を先制。早々と試合の大勢を決めると、2回表にも無死二・三塁から6番・仁井祐斗の二遊間を抜くタイムリ、犠牲フライで3点を追加。3回表には安打、パスボール、ワイルドピッチで無死三塁とし、犠牲フライで難なく11点目を挙げ、一方的な展開とした。投げては、先発投手に起用された前友春輝が被安打3の好投。決勝進出を見据えた「エース・福田一馬の温存」に成功し、11-0（4回コールド）で

完勝！2年ぶりの決勝へ駒を進めた。

### 《決勝》

御調高 7-1 大村工業高

御調は3回表、四死球で無死一・二塁とし、4番・小田凌輔がセンターへ美しいアーチを描くスリーランホームラン！5番・安藤圭司も左中間二塁打で続き、犠打で三進すると、二死後、8番・福田一馬が三遊間を破るタイムリー！！この一回一挙4点を奪った。主導権を握った御調は4回表にも、一死一塁から3番・佐伯泰知が右中間へ豪快にツーランホームラン！7回表には7番・仁井祐斗がスリーベースヒットを放ってチャンスメイクし、一死後、9番・宮前弥千翔のショート強襲タイムリーにより生還。7点目を挙げた。

守っては、準決勝で戦略的休養をとったエース・福田一馬が「エンジン全開」のピッチング。7回裏に1点を返されはしたものの、完投勝利を飾り、歓喜爆発！！7年ぶり2回目の栄冠（※念願であった単独優勝）に輝いた。



歓喜、そして涙！！

## 大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら！



# 第26回全日本中学生男子大会

令和8年8月1日（土）～3日（月） 福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター  
記録提供：福岡県協会記録委員会



## 悲願の栄冠！

新見ジュニアソフトボールクラブ（岡山）



大会 MVP・鈴木心大  
（新見ジュニアソフトボールクラブ）



優秀選手・田中朔太郎  
（山口水産ジュニア）

### 【大会概要】

標記大会は8月1日（土）～3日（月）の3日間、福岡県福岡市・雁の巣レクリエーションセンターを会場に開催され、全国から26チームが集結。熱戦が展開された。

大会初日（1日／土）に1回戦・2回戦の18試合、2日目（2日／日）に準々決勝・準決勝の6試合、3日目（3日／月）に決勝の1試合を行い、無事に全日程を終了することができた。



誰もが「勝利」をめざし、「全力」を尽くして戦うそれでも…「勝者」と「敗者」の明暗は分かれる

ベスト4に名乗りを上げたのは、岐阜レイブス（長崎）、山口水産ジュニア（鹿児島）、神戸学院大学ジュニアソフトボールクラブ（兵庫）、新見ジュニアソフトボールクラブ（岡山）。激戦を勝ち抜いた4チームが、中学生男子「夏の頂点」をかけた戦いに挑んだ。

## 〈準決勝〉 山口水産ジュニア 11－6 壱岐ブレイブス

後攻の壱岐は初回、一死三塁からワイルドピッチで先制。さらに3回裏にも、敵失、安打等で一死二・三塁とし、4番・田島愛蓮のタイムリー、6番・西凜之介の適時二塁打で3点を追加。4－0とリードを広げた。

4点を追う山口水産は4回表、9番・田中朔太郎の右越三塁打、3番・霜山流旺の左中間二塁打等で4－4の同点に追いつき、なお一死二・三塁のチャンスが続き、4番・濱島大海がセンターヘキッチリと犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が逆転のホームイン。5－4と試合をひっくり返した。その後も3番・霜山流旺の満塁ホームラン等で突き放し、5回終了時点で制限時間を迎え、山口水産が11－6で勝利。2年連続の決勝進出を決めた。



山口水産ジュニアが序盤の劣勢をはね返し、逆転で決勝進出！

## 〈準決勝〉 神戸学院大学ジュニアソフトボールクラブ 0－2 新見ジュニアソフトボールクラブ



新見は「エース」宮田桜弥が力投  
被安打2の完封で決勝へ

先攻の神戸は初回、四球、安打、ワイルドピッチ等で一死二・三塁のチャンスを迎えたが、「あと一本」が出ず……絶好の先制機を逃がしてしまった。

両チーム無得点のまま、迎えた3回裏、新見は一死から1番・鈴木心大、2番・宮田桜弥の連打で一・二塁とし、次打者のショートゴロの間に走者がそれぞれ進塁。二死ながら二・三塁の先制機をつかむと、4番・妹尾悠生の左中間を抜くタイムリーで塁上の走者を一掃。この回2点を先制した。

投げては、新見のエース・宮田桜弥が神戸打線をわずか2安打に抑え、完封。決勝の舞台へ駒を進めた。

## 〈決勝〉 新見ジュニアソフトボールクラブ 7－6 山口水産ジュニア

後攻の山口水産は初回、新見の先発・宮田桜弥の制球の乱れにつけ込み、一死二・三塁のチャンスを得ると、4番・濱島大海、5番・鴨川航陽、6番・立元旺志朗の3連続タイムリーで3点を先制した。

3回表、新見が反撃開始。二死から敵失で出塁した走者を2番・宮田桜弥、3番・藤野兼臣の連打で返し、まず1点。続く4回表にも、5番・桑原大智の三塁線を抜く安打と7番・中島拓治のショート内野安打等で二死二・三塁とし、9番・川西結夢のタイムリー等で2点を返し、3－3の同点に追いついた。さらに5回表にも、2番・宮田桜弥の二塁打と2四球で無死満塁と攻め立て、4番・妹尾悠生、5番・桑原大智の連続タイムリーでこの回4点を勝ち越し。7－3とリードを奪った。

4点を追う立場となった山口水産は、6回裏に相手守備の乱れ等で2点を返し、最終回にも7番・櫛下町優武の左中間を破る二塁打と9番・田中朔太郎のレフト前タイムリー等で1点を返し、1点差まで迫ったが……反撃もここまで。山口水産は初回到3点を先制しながら逆転を許し、それでも諦めず終盤逆襲。1点差まで詰め寄ったが、あと一歩及ばず、準優勝。新見が粘る山口水産の猛迫を振り切り、悲願の初優勝に輝いた。



新見が粘る山口水産を振り切り、初優勝！

## 第26回全日本中学生男子大会



決勝ダイジェスト

決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# 第26回全日本中学生女子大会

令和8年8月8日（土）～10日（月） 大阪府堺市／みなと堺グリーンひろば  
記録提供：大阪府協会記録委員会



## 5年ぶり2回目の優勝！

### 5START（静岡）



優秀選手・小林笑万  
(AICHI DREAM RUSH)



大会 MVP・山内星空  
(5START)

## 【大会概要】

標記大会が、8月8日（土）～10日（月）の3日間、大阪府堺市・みなと堺グリーンひろばを会場に開催された。大会には全国の精鋭48チームが集結。大会初日、8球場を使用し、1回戦・2回戦32試合を実施。2日目は4球場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は3球場を使用。準決勝2試合は同時進行で行い、その間に決勝戦の試合会場を準備。最後に別会場で決勝戦を実施し、全日程を終了した。

大会期間中は厳しい暑さとなり、「酷暑」「猛暑」の中での試合となったが、2回、4回、6回終了時に給水タイムを設ける等、「暑熱対策」も徹底し、予定通り全日程を終了した。

準決勝には、2年ぶり3回目の優勝をめざすAICHI DREAM RUSH（愛知）、初優勝に燃える渡会レパーズ（三重）、5年ぶり2回目の優勝を狙う5START（静岡）、2年連続ベスト4進出、「今年こそ！」と意気込む広島プリンセス（広島）の4チームが勝ち上がり、「全国制覇」「日本一」の座をめざし、暑さに負けない「熱い戦い」を繰り広げた。

## 〈準決勝〉 AICHI DREAM RUSH 6－1 渡会レパーズ

先攻のAICHI DREAM RUSHは初回、相手守備の乱れとバント安打、犠打で一死二・三塁とし、4番・高畑磨穂のセカンドゴロの間に三塁走者が生還。幸先良く1点を先取した。AICHI DREAM RUSHは中盤4回表にも4番・高畑磨穂の二塁打を足場に相手守備陣に揺さぶりをかけ、2つのフィルダースチョイスを誘う等、2点を追加。6回表には4番・高畑磨穂の左中間二塁打から2つの内野ゴロで二塁走者を効率よく本塁に迎え入れ、1点を加え、最終回にも相手守備の乱れから決定的な2点を追加。先制、中押し、ダメ押しの理想的な試合展開で渡会レパーズを圧倒し、6－1で快勝。決勝へ駒を進めた。



AICHI DREAM RUSHがソツのない攻めで得点を重ね、決勝進出！

## 〈準決勝〉 広島プリンス 0－2 5START



5STARTのエース・山内星空は被安打1の好投。決勝進出に貢献

後攻の5STARTは初回、相手投手の制球の乱れにつけ込み、4四死球で押し出し。労せずして先取点を挙げた。5STARTが1点をリードしたまま、迎えた5回裏には、一死から2番・金山遙希がレフト前ヒットを放ち、出塁。次打者のショートゴロで二塁フォースアウトとなった後、4番・岩瀬眞依がレフト頭上を抜くタイムリーツーベースを放ち、一塁走者が一気に生還。貴重な追加点を挙げ、2－0とリードを広げた。

守っては、「エース」山内星空が6回までノーヒットピッチング。7回表、先頭打者に安打を打たれ、「ノーヒット・ノーラン」は逃がしたが、被安打1の完封で2－0のまま逃げ切り、決勝進出を決めた。

## 〈決勝〉 5START 5－0 AICHI DREAM RUSH

先攻の5STARTは初回、一死から2番・金山遙希、3番・山内星空、4番・岩瀬眞依の3連打で満塁と攻め立て、5番・岩崎舞愛が三遊間を破るタイムリー！これに相手守備の乱れも絡み、2点を先制。6番・松浦麻莉が四球を選び、再び一死満塁とし、ヒットエンドランの失敗で二死二・三塁となった後、7番・鈴木愛梨が三遊間深く転がす適時内野安打。早いカウントから「好球必打」の積極策で鮮やかな先制攻撃を見せ、初回到3点を先制した。5STARTは3点をリードしたまま迎えた5回表にも、四球、犠打、安打、盗塁、四球で一死満塁とし、6番・松浦麻莉が三遊間を抜くタイムリー！

6回表にも四球で出塁した走者がすかさず盗塁。1番・荒川柚奈がセンター前にタイムリーを放ち、二塁走者がホームイン。決定的な5点目を挙げ、5年ぶりの「優勝」をグッと引き寄せた。

守っては、「エース」山内星空が準決勝に続いて快投！6回二死まで一人の走者も許さぬパーフェクトピッチング。初安打を許した後の二死一・二塁のピンチも無失点で切り抜け、最終回も先頭打者を内野安打で出塁させたものの、味方守備陣の好守もあり、被安打3の完封勝利！5年ぶり2回目の優勝、「全国制覇」に大きく貢献し、大会MVPに輝いた。



5START が着々と加点し、5－0で快勝！

### 決勝ダイジェスト



第26回全日本中学生女子ソフトボール大会  
2026.8.8～10 大阪府堺市 みなと堺グリーンひろば

決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# 第40回全日本小学生女子大会

令和8年7月25日（土）～28日（火） 福井県敦賀市／敦賀市きらめきスタジアム・

敦賀市総合運動公園多目的グラウンド

記録提供：福井県協会記録委員会



## 春夏連覇！

花の台ウィングス（神奈川）



大会 MVP・粟飯原和香  
（花の台ウィングス）



優秀選手・館岡萌花  
（八郎潟 SBC）

### 【大会概要】

標記大会が、7月25日（土）～28日（火）の4日間、福井県敦賀市・敦賀市きらめきスタジアム・敦賀市総合運動公園多目的グラウンドを会場に開催された。

大会には全国の精鋭40チームが参加。大会初日、2球場を使用し、1回戦・8試合を実施。2日目は4球場で2回戦16試合を行い、3日目も4球場で3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施。大会最終日は2球場で準決勝2試合・決勝1試合を行い、全日程を予定通り終了した。

大会最終日、悪天候が予想され、試合開始を15分早めて準決勝2試合がスタート。決勝戦開始直前、雨に見舞われる場面もあったが、何とか無事に試合を行い、閉会式は雷鳴鳴り響く中、駆け足で行われた。

準決勝には、春季全日本小学生女子大会で準優勝。「今度こそ！」とリベンジを誓う上沖ブルースターズ（埼玉）、その春の大会で優勝。「春夏連覇」を狙う花の台ウィングス（神奈川）、準々決勝までの4試合で57得点を叩き出し、圧倒的な強さを見せる八郎潟SBC（秋田）、3年ぶりの「王座奪還」をめざす岸和田Jrクラブ（大阪）、以上の4チームが勝ち残った。

### 〈準決勝〉 八郎潟 SBC 8－1 岸和田 Jr クラブ

先攻の八郎潟SBCは初回、1番・渡部叶愛、2番・小玉咲満の連打と4番・畠山優莉の四球で一死満塁とし、5番・小玉優心の一・二塁間を抜くタイムリーに相手守備の乱れが絡み、満塁の走者を一掃し、打った小玉優心までホームイン！ 一挙4点を先制した。八郎潟SBCはその後も攻撃の手を緩めず、3回表には3連続長短打で2点を追加。5回表にも3連続を含む4本の長短打を集中し、2点を追加。8－0と大きくリードを奪った。

岸和田Jrクラブもその裏、1点を返し、意地を見せたが、反撃もここまで。5回終了時点で7点差をつけられ、得点差コールドゲームが成立。八郎潟SBCが準決勝も圧勝し、決勝に駒を進めた。



八郎潟 SBC が猛打で決勝進出！

### 〈準決勝〉 花の台ウィングス 6－5 上沖ブルースターズ



花の台ウィングスが激闘を制す  
終盤の逆転で決勝進出！

春季全日本小学生女子大会「決勝」のカードの再現となったこの試合、両チームの「意地と意地」がぶつかり合う二転三転の好ゲームとなった。花の台ウィングスが初回到先に先手を取れば、その裏、上沖ブルースターズが逆転。3回表に同点に追いつかれても、すぐに突き放し、上沖ブルースターズが3回終了時点で5－2とリードし、「春のリベンジ」なるかと思われた。

しかし、花の台ウィングスが終盤反撃。5回表に相手守備の乱れから1点を返し、6回表には安打、盗塁、四球、内野安打で一死満塁と攻め立て、5番・栗飯原和香が走者一掃の三塁打。この「起死回生」の一打で6－5と試合をひっくり返し、そのまま逃げ切り、激戦を制し、「春夏連覇」に王手をかけた。

### 〈決勝〉 八郎潟 SBC 3－5 花の台ウィングス

先攻の八郎潟ウィングスは初回、1番・渡部叶愛が四球を選び、出塁。二死後、4番・畠山優莉がレフト前ヒットを放ち、一・二塁とし、5番・小玉優心のセカンドへの当たりが相手守備の乱れを誘い、1点を先制した。

1点を追う花の台ウィングスは4回裏、2番・小野莉奈が四球で出塁。3番・川添莉央のショート内野安打の間に一塁走者が判断よく三塁を陥れ、無死一・三塁。一塁走者が盗塁し、二・三塁とした後、4番・山岸詩のライトへの犠牲フライで三塁走者を迎え入れ、1－1の同点に追いついた。続く5番・栗飯原和香もライトフライを打ち上げ、三塁走者が本塁突入を試みたが、これはライト・岩崎愛奈の好返球でタッチアウト。逆転はならなかった。

八郎潟SBCは6回表、4番・畠山優莉がライトオーバーのランニングホームラン！ さらに敵失で出塁した走者がワイルドピッチで三塁まで進塁し、7番・畠山愛望の適時三塁打でもう1点加え、3－1と2点のリードを奪った。

これで勝負あったかと思われたが、花の台ウィングスはその裏、二死走者なしから怒濤の5連続長短打で一挙4点を奪う猛攻を見せ、5－3と逆転。準決勝、決勝と驚異的な粘りで「逆転劇」を演じた花の台ウィングスが「春夏連覇」を達成した。



花の台ウィングス「春夏連覇」を達成！！

### 第40回全日本小学生女子ソフトボール大会



### 決勝戦 ダイジェスト

2026.7.25～28

福井県敦賀市

敦賀市きらめきスタジアム

敦賀市総合運動公園

多目的グラウンド



決勝戦ダイジェスト動画はこちら

大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

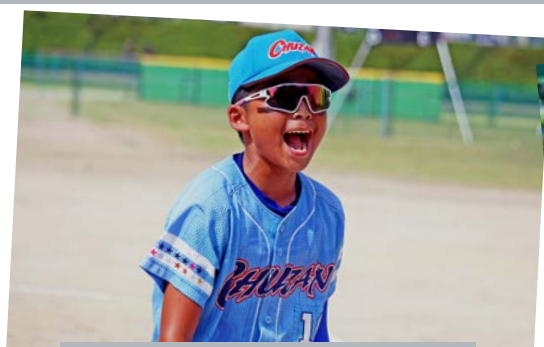
# 第40回全日本小学生男子大会

令和8年7月31日（金）～8月3日（月） 鹿児島県南九州市／知覧平和公園多目的球場・陸上競技場  
記録提供：鹿児島県協会記録委員会



横須賀（神奈川）

## 春夏連覇の偉業達成



優秀選手・新藤凰大  
（中山ソフトボールスポーツ少年団）



大会 MVP・亀田隼永  
（横須賀）

### 【大会概要】

標記大会が、7月31日（金）～8月3日（月）の4日間、鹿児島県南九州市・知覧平和公園多目的球場・陸上競技場を会場に開催された。

大会には、全国の精鋭43チームが集結。大会初日、4球場を使用し、1回戦11試合を行い、2日目も4球場で2回戦16試合を実施。3日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は2球場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、全日程を終了した。

大会期間中は酷暑の日々が続き、連日「体温」を超える暑さに……「熱中症予防対策ガイドライン」に沿って給水タイムを設ける等、暑熱対策にも万全の配慮がなされていた。

準決勝には、「春夏連覇」を狙う横須賀（神奈川）、2回戦から登場し、6-10、4-2、6-1と危なげなく勝ち上がった灘オールスターズ（山口）、「地元」の期待を背負い勝ち上がった中山ソフトボールスポーツ少年団、加世田ソフトボールスポーツ少年団（いずれも鹿児島）の4チームが勝ち上がり、大会最終日「日本一」の座をめざし、灼熱の太陽のもと、「暑さ」に負けない「熱い戦い」を繰り広げた。

### 〈準決勝〉 灘オールスターズ 4－11 横須賀

灘オールスターズは2回表、4本の長短打を集中し、大量4点を挙げ、このまま有利に試合を進めるかと思われたが、その裏、横須賀が猛反撃。この回先頭の5番・大島一翔の二遊間を抜く安打を口火に6連続長短打を含む7安打を集中。打者13人を送る猛攻で一挙9点を奪い、逆転に成功。4回裏にも死球、6番・佐々木龍佑のライト線への二塁打、7番・久保田塁の一・二塁間を抜く安打、相手守備の乱れもあり、この回2点を追加。11－4と7点差をつけた。

5回表、灘オールスターズは無得点に終わり、5回得点差コールドゲームが成立。横須賀が決勝へ駒を進め、「春夏連覇」に王手をかけた。



横須賀、一気の逆転で決勝進出！

### 〈準決勝〉 中山ソフトボールスポーツ少年団 3－2 加世田ソフトボールスポーツ少年団

先攻の中山ソフトボールスポーツ少年団は初回、鮮やかな先制攻撃を見せ、一死から2番・川上輝、3番・上東蓮翔、4番・宮内悠良、5番・上ノ原光彩、6番・倉山陽向が怒涛の5連続長短打！ 初回到3点を先制した。

加世田ソフトボールスポーツ少年団もその裏、敵失で出塁した走者を一塁に置き、2番・上村碧の左中間二塁打で一塁走者が一気にホームイン！ 1点を返した。5回裏にも、二死走者なしから内野安打、次打者への四球となる投球がワイルドピッチとなる間に一・三塁とし、3番・宇治野翔悟がセンター前にはじき返し、1点差に詰め寄ったが、反撃もここまで。中山ソフトボールスポーツ少年団が1点差で逃げ切り、決勝進出を決めた。



中山ソフトボールスポーツ少年団  
1点差の接戦を制し、決勝へ！

### 〈決勝〉 中山ソフトボールスポーツ少年団 0－6 横須賀

後攻の横須賀は初回から打線が爆発！ 1番・興水耀太がレフト前ヒットを放ち、猛攻の口火を切ると、盗塁、犠打で三塁へ進み、3番・亀田隼永が四球で歩き、すかさず盗塁。一死二・三塁とし、4番・鈴木綺玖のセンター頭上を越える適時二塁打で2点を先制。二死後、四球で一・二塁とした後、7番・久保田塁が左中間を深くと破る三塁打。塁上の走者を一掃し、さらに四球、9番・並木晴蒼のピッチャー強襲安打で1点を加え、初回到大量5点を先制。試合の大勢を決してしまった。

横須賀は続く2回裏にも一死から4番・鈴木綺玖が二遊間を抜く安打を放ち、出塁。犠打で二死ながら得点圏に走者を進め、再出場した6番・佐々木龍佑がタイムリーを放ち、1点を追加。6点目を挙げた。

守っては、「エース」亀田隼永が力投！ 中山ソフトボールスポーツ少年団打線をわずか2安打に抑え込み、完封。6－0と圧勝し、「春夏連覇」を成し遂げた。

3回戦の大阪八尾（大阪）戦では初回到2点を失い、終盤6回到逆転（5－2で勝利）、準決勝の灘オールスターズ戦でも2回表に4点を先制される等、必ずしも「順風満帆」な戦いではなかったが、その都度「王者」の強さを見せつけ、逆転。「春」に続いて「夏」も「頂点」へ登り詰めた。



横須賀が「春夏連覇」を達成！



第40回  
全日本小学生男子  
ソフトボール大会  
決勝戦ダイジェスト

2026.7.31～8.3 鹿児島県南九州市

決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は、  
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

# 第72回全日本教員大会



## 無情の雨… 大会中止

7月25日（土）～27日（月）、宮城県東松島市／鷹来の森運動公園ソフトボール場を舞台に開催される予定だった「第72回全日本教員大会」は、全日程（3日間）「悪天候」に見舞われるという異例の事態となつてしまい……中止。

生涯種別の全日本（全国）大会は「予備日を設けていない」ため、結局1試合も実施することができず……「雨天中止」に。

大会プログラムによると、試合会場／鷹来の森運動公園ソフトボール場（※平成13年に開催された新世紀宮城国体のソフトボール競技会場）は令和6年度から2年かけて大規模改修を行い、今春（4月）全面リニューアルオープンしたばかりだったとのこと。それだけに今回の「中止」は残念でならないが……天候だけは致し方なく、また来年度に期待！

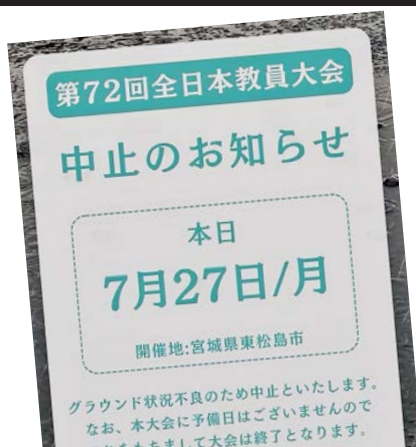
今回はグラウンドに「熱気」「歓声」が戻ってくることを、心から願う。

◎第72回大会出場チーム  
トーナメント表はこちら



次回は晴天のもと、「熱き戦い」を期待！！

# 夏の全日本（全国）大会真っ盛り



## 令和8年熊本地震により 被災された皆様へ

7月28日に発生した熊本県を中心とする地震により被災された皆様、ならびにそのご家族や関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

余震も続く中、また酷暑による熱中症の心配もある中、安全を確保しながらの復旧活動となりますが、一日も早い日常生活の回復を願っております。



# 震災にも酷暑にも大雨にも負けず…大会開催

7月中旬からは「クラブ男子選手権大会」の開催を皮切りに、各種別の全日本大会（全国大会）の開催がスタート！各カテゴリーで「日本一」の座をめざし、全国各地で熱戦が展開されている。

ただ……その大会開催相次ぐ中、「令和8年熊本地震」が発生、記録的な暑さ、過去に例のないようなルートでの台風の影響を受けた大雨等、大会開催地、大会参加チームを悩ませている。また、「こんなときに大会を開催していいのか？」といった議論やそれぞれの心の中の「葛藤」を抱えながらも、大会の「成功」へ向けた努力が続けられている。

「暑熱対策」「熱中症予防」も給水タイムを設け、「全日本実業団男子選手権大会」では決勝戦を除くすべての試合で5回表から4名の審判員を総入れ替える等、新たな取り組みも実施された。

酷暑の中、大会を勝ち抜き、とびきりの笑顔を見せるチームの皆さんの姿、力の限りを尽くして戦い、涙する姿を見れば、「スポーツの力」を確かに感じる。また、その選手・チームの皆さんが「全力」で戦えるだけの舞台を整えるべく大会を支えてくれている運営役員・スタッフ、審判員・記録員の皆さんの姿も心に刻んでおきたい。

## 全国各地で全日本（全国）大会を開催中！



# 日韓交流事業（チーム招待）

2026年7月30日（木）～8月4日（火） 兵庫県尼崎市



## 日韓両国のレベルアップを願い グラウンド内外で活発に親善・交流



### ●事業概要●

この「日韓交流事業」は、日本と韓国のジュニア世代のソフトボール選手が、試合や合同練習、文化交流を通じて相互理解と友情を深めながら競技力向上を図ることを目的として2001年にスタートし、今年で23回目の開催となる。

今回は、韓国女子U18代表チームが来日。2026年3月に開催された「第44回全国高校女子選抜大会」で優勝した兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校ソフトボール部が「ホストチーム」となり、韓国女子U18代表チームを迎え、6日間にわたり充実した交流プログラムを実施した。

### ●実施内容●

・7月30日（木）

韓国代表チームが関西国際空港に到着。韓国チームは、日本の夏の蒸し暑さにも負けず、元気にホテルへ移動。ホストチームとなる兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校は同日終了したインターハイでの熱戦を終え、その足でホテルへ移動。明日からのプログラムに向けて一緒に夕食を囲み、休養をとった。

・7月31日（金）

快晴の中、今回は指導でもお世話になる園田学園大学グラウンドにて、両国選手による交流試合を実施。午前中の第1試合は韓国が先制するも、日本が後半逆襲。結果的には二桁得点差で日本が勝利を収めた。午後は両チーム合同での練習を行い、真剣勝負の中にも笑顔が絶えず、互いのプレイスタイルを学び合う一日となった。お昼は大学食堂をお借りしてお弁当を囲み、試合中とは違うアカデミックな雰囲気の中で和やかな時間を過ごした。

この日の夜は歓迎食事を開催。岡本友章専務理事、山田博子国際連携副委員長、兵庫県ソフトボール協会の川田副会長、亀田理事長、地元尼崎市協会理事長でもある栄原常任理事がホストとなり、韓国チームを歓待した。韓国チームは人気のKPOPとJPOPを融合させたダンス、日本チームは「韓国語での自己紹介」などを披露し、会場は笑顔と拍手に包まれた。

・8月1日（土）

この日も晴天の中、両国選手による交流試合を実施。試合結果はこの日も二桁得点差となり、日本の勝利であった。

だが、前日の合同練習の成果が随所に感じられた。

午後は園田学園大学の選手にご協力いただき、ポジション別に細かく合同で指導を受けた。大学チームの保護者様による「かき氷」の差し入れもあり、園田学園大学全体で「おもてなし」いただき、実りある交流の時間を持つことができた。

・8月2日（日）

この日も晴天の中、交流試合を実施。この日の試合も二桁得点差で日本の勝利となった。点差が開いてしまったが、韓国女子U18代表チームのどんな局面においても決して諦めることなく、一球一球に対してひたむきにソフトボールと向き合う姿勢は、非常に素晴らしいものであった。また、韓国チームの監督およびコーチの姿勢も熱意に溢れており、技術向上への強い意欲と深い愛情が感じられた。

最後は両チーム全員で集合写真をと

り、3日目を終了した。

・8月3日（月）

文化交流として、韓国チーム、日本チームで揃って阪神エリアの名所であるユニバーサルスタジオジャパンを訪

問。日韓の高校生同士で日本が誇るエンターテインメントを味わってもらい、国際的な友好親善を深めた。兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校は11月の再会を誓い、ここでお別れ。韓国チームは大阪市内での観光とショッピングを満喫。日本の文化を存分に体験する一日となった。

・8月4日（火）

関西国際空港にて韓国チームを見送り、交流事業が無事終了した。

## ●成果と感想●

（1）試合・練習・文化交流を通じて、「言葉の壁」を超えて友情を育むことができた。

（2）日本と韓国、それぞれの練習方法やプレイスタイルを体験し、視野が広がった。

## ●まとめ●

今回の交流事業は、日韓両国の競技力向上だけでなく、文化や人とのつながりを深める貴重な機会となった。韓国チームは、日本特有の蒸し暑さにも負けることなく、最後まで元気にプレイ。少しでも技術を習得しようとする

姿勢に感銘を受けた。兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校ソフトボール部との対戦や合同練習を通して、互いのプレイスタイルを肌で感じ合った。



現状における力の差は否めないが、スポーツが国境を越える力を改めて実感し、この若いソフトボールプレイヤー達が、今後の日韓両国のソフトボールを牽引することを確認した。また、選手たちにとって、この多感な時期の国際交流が、今後の競技生活や人生において大きな財産となることを願ってやまない。

## 事務局だより

アジア競技大会  
7連覇の偉業達成へ！

来る9月26日（土）～10月3日（日）、愛知県安城市／安城市総合運動公園を会場に開催される「第20回アジア競技大会」（ソフトボール競技）の試合スケジュールが正式決定。

未だ、どの競技団体も成し遂げたことのない「7連覇達成」へ……女子TOP日本代表チームがチャレンジする！



開催国として、勝利・優勝は至上命題

出場チーム、試合方式、日本戦スケジュールは次の通り。

## 【出場チーム】

日本①、チャイニーズ・タイペイ⑤、中華人民共和国⑧、フィリピン⑬、シンガポール⑲、韓国⑳、ホンコン・チャイナ㉓、タイ㉔

※○数字は2025年12月31日発表のWBS C（世界野球ソフトボール連盟）世界ランキング

## 【試合方式】

まず、全8チームによる1回総当たりの予選ラウンドを実施。予選ラウンド3位と4位が「3位決定戦」へ、予選ラウンド1位と2位が「優勝決定戦」へ進み、最終順位を決定する。

## 【日本戦スケジュール】

- ・9月26日（土）15時15分  
日本 vs フィリピン
- ・9月27日（日）15時15分  
日本 vs タイ

・9月28日（月）15時15分  
日本 vs ホンコン・チャイナ

・9月29日（火）15時15分  
日本 vs シンガポール

・9月30日（水）15時15分  
日本 vs 韓国

・10月1日（木）15時15分  
日本 vs チャイニーズ・タイペイ

・10月2日（金）15時15分  
日本 vs 中華人民共和国

・10月3日（土）

◎3位決定戦 10時

予選4位 vs 予選3位

◎優勝決定戦 14時

予選2位 vs 予選1位



# アジアを制し、 さらなる高みへ!!